



キ障協顧問・前会長
渋沢 久

教会を生かす障害者

巻頭の言葉

「中風の人をいやす」
マルコによる福音書
二一 数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、二二 大勢の人が集まつた。イエスはここを根城にして伝道に出

たので、戸口の辺りまですきまもないほどになつた。イエスが御言葉を語つておられると、二三 四人の男が中風の人を運んで来た。二四 しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかつたので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。二五 イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。そして、中風の人に言われた。二六 「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」二七 その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の見ている前を出て行つた。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言つて、神を賛美した。

カファルナウムはガリラヤ湖畔の商業、漁業で栄えた町であつた。栄えた町にはきまつてその反対の現象として貧しい人や、隠れて生きる人がいるものである。イエスは「わたしはあなたに言ふ。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」と言われ、寝たきりだつた男を立ち上げさせた。床を担ぐことができるまでに

キ障協

No. 43
2022年3月10日
全国キリスト教障害者団体協議会
発行人：廣田守男
住所：〒672-8045
姫路市飾磨区中野田4-116-38
電話：079-235-8819
印刷：リブウェル聖恵
(価格一部50円)

郵便振替口座 00110-7-688014
加入者名：全国キリスト教障害者団体協議会

かけていたのだが、ある日、イエスが帰つてくると待ち構えたかの如くに救いを求める人達がいっぱいやってきて会堂は身動きできないほどになつた。
その大勢のなかの一員に中風の男（注・何らかの脳疾患がある男と考えられる）と仲間の四人がいた。だが、床に寝たままの中風の男はとても会堂に入れる状況には遠かつた。

私など周囲に適応することを第一に考える人間はここで諦めて引き下がるところだが、主に依り頼むことを第一に考える者たちはそうではなかつた。

従来のキリスト者は適応型が多く、それは私に似ているのだが、この男達は主にしがみつく方を選んだのだ。その結果、周囲の迷惑を考えずに屋根を剥がしてまでして中風の男を教会の真ん中に吊り降ろしたのだった。その一途に主に頼る姿こそが信頼者の在り方であろう。なぜならイエスはそれをよしとして「信仰」と認めたからである。

イエスは「わたしはあなたに言ふ。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」と言われ、寝たきりだつた男を立ち上げさせた。床を担ぐことができるまでに



東中國キリスト者障害を
共に学び共に担う会会長
難波幸矢

原体験から

「教会で障害者が真ん中に」

—今、教会を問う—

夫の病気は進行性筋萎縮症という病氣で、いわゆる筋ジスです。これにはいろいろなタイプがあるのですが、壮年期に発病すると二、三年もしくは四、五年で死ぬ場合が多いです。早い人は半年で死にます。幼児期に三、四歳で発病しますと二〇歳前後まで生きる場合が多いです。

この病気になつた人は、一度や二度は自殺を試みます。いよいよになつてから死のうと思つても、睡眠薬を飲む嚥下力も首をつる手や足の力もなくなつてしまふから、死ねる時に死のうと思うのです。夫がちょうどそのような時、三浦綾子の「泉への招待」に出会いました。

なつて男は喜びに満たされて帰つて行つたと聖書は伝えている。

更に、それを見ていた人たちも神様を讃美したという。教会が変わつたのである。中風という病を負う者を中心としたことが教会を変えたのであつた。

私たちは何を第一にして教会に集つてゐるであろうか。

悩みあるもの、悲しみに沈む者、障害に苦しむ者、その人たちを教会の中心に置くとき全ての者が恵みのうちに生かされる、カファルナウムの出来事はそう私たちに語りかけている。

一、平安

三〇年近く前に大きい試練に遭いました。夫の病気と障害と死です。病気の始めの頃はクソツタレ神様と抗い、何よ神様と食つてかかり、なぜ、なぜと神様を揺さぶつてその意味を問い合わせました。そしてその答えは平安のためでした。イザヤ書三八章一七節の「ああ私の苦しんだ苦しみは平安のためでした」という聖言葉の通りでした。私が何者であるかを大わかりした時、許されて生かされている勿体なさに、神の前にペつちゃんこにひれ伏しました。そして地位も名譽も財産も全く何もないのに、草原を歩むようなさわやかさの中で生きることが許されています。

二、夫の病気

青年期に発病しますと四一五〇年は生きることができます。病気のタイプによつて死ぬまでの期間はいろいろですが、体がどのようになつていくかという点では、病名が示すように全身の筋肉が萎縮していくのです。瞬きをする筋肉が萎縮すれば目を閉じたままになり、顎の筋肉が萎縮すれば食べたり話したりすることができなくなり、手や足が動かなくなつていぐのです。タイプによつて上(顔)から萎縮が始まると、下(足)のほうから萎縮が始まるか、下(足)のほうから萎縮が始まるかの違いはあっても、とにかく全身の筋肉が萎縮して歩くことは勿論寝返りもできない、自分で歯を磨くこともできなくなつてしまします。遂には羽布団一枚が重いと思うほど呼吸も困難になつていきます。

三、「泉への招待」

この病気になつた人は、一度や二度は死のうと思つても、睡眠薬を飲む嚥下力も首をつる手や足の力もなくなつてしまふから、死ねる時に死のうと思うのです。夫がちょうどそのような時、三浦綾子の「泉への招待」に出会いました。

エッセーですからどこからでも読めます。数頁ずつの読みやすいものです。その一つに「誰のための命」というのがありました。川谷という牧師先生がカナダの教会に行つていた時のことを、教会の礼拝の中で語つてゐる箇所です。「その教会の中に、いつも明るい顔をした夫婦がいた。ある日その家を訪問して、私は驚いた。こんな大変な状況の中で、この夫婦は明るく生きていたのかと思つた。その夫婦の愛する子は、重度身障者で、口もきけない状態であつた。体だけが大人で、後は子供同然であつた。私はその夫婦に言つた。

「このお子さんを抱えて、明るくしていられますね。」するとその夫婦は答えた。「先生あの子は私達家族の慰めです。祝福です。あの子がいるために、私達の家族は心が一つになつて、愛し合つていけるのです。」と。続いて教会の人達に川谷牧師は「皆さんの命は誰のためにあるのか。自分のためにあると思つていられますか。否、私達の命は、他の人のためにあるのです。他のために生きなければ、むなしい人生を送るより仕がないのです。」と語られたそう

です。三浦綾子さんは脳天を打たれました。死ぬことをさえ考えていた夫が生きていてくれたのです。これらのことを通して価値観も変えられ、周りをみつめてみると、世の多くの人が疲れ切つたような姿をしている中で、外見は大変そうだったのです。自分もやがては人の世話になるだけの人生を送るようになる。しかし、無駄に生きている人は一人もない。彼がこうしていく中で両親が変えられた。夫婦が本当の夫婦になつていつた。生きていよいんだ。意味のないことを神はなさらない、と思えるようになつたのです。私は自分の試練から考えて、このご夫妻がはじめから支え合い励まし合つて明るい顔の夫婦であつたとは思えません。なぜ私がこの子の世話をしなければならないの？ 少しはあなたもこの世話ををしてよと言つたでしようし、なぜ我が家にこの子が？ とも考えたでしよう。長い間の苦悩を通して、しみじみと悟らされ、そして夫婦が明るい顔になつていつたのだと思います。

誰

夫は、川谷牧師の言葉にも感動しましたが、本の中の障害を負つた青年に出会つたのです。自分もやがては人の世話になるだけの人生を送るようになる。しかし、無駄に生きている人は一人もない。彼がこうしていく中で両親が変えられた。夫婦が本当の夫婦になつていつた。生き

ていいんだ。意味のないことを神はなさらない、と思えるようになつたのです。私は自分の試練から考えて、このご夫妻がはじめから支え合い励まし合つて明るい顔の夫婦であつたとは思えません。なぜ私がこの子の世話をしなければならないの？ 少しはあなたもこの世話ををしてよと言つたでしようし、なぜ我が家にこの子が？ とも考えたでしよう。長い間の苦悩を通して、しみじみと悟らされ、そして夫婦が明るい顔になつていつたのだと思います。

死から生へと夫は変えられました。誰

も神の御心なしに生まれてくることはできかないし長らえることもできない。生かされている間生きようと決心したのです。死ぬことをさえ考えていた夫が生きていてくれたのです。これらのことを通して価値観も変えられ、周りをみつめてみると、世の多くの人が疲れ切つたような姿をしている中で、外見は大変そうだけでもさらさらと、晴れ晴れとした顔立ちで生きていらつしやる障害を負つた人々もさらさらと、生きています。

ここに「一障害児の母親の詩」を紹介します。夫もまた私にいい思い出を残してくれました。

一障害児の母親の詩

私の子どもに生まれてくれてありがとうございます。私は自分の試練から考えて、このご

夫婦がはじめから支え合い励まし合つて明るい顔の夫婦であつたとは思えません。なぜ私がこの子の世話をしなければならないの？ 少しはあなたもこの世話ををしてよと言つたでしようし、なぜ我が家にこの子が？ とも考えたでしよう。

どう

私の子どもに生まれてくれてありがとうございます。あなたが私の子どもでなかつたら

石を投げられた者の痛みの深さも知らなかつたでしよう

障害の重い人達が天使の心を持つこ

とも知らなかつたでしよう

本当の愛も思いやりも富める人の貧しい心も

貧しい人の豊かな心も

あなたが私の子どもでなかつたら
知らずに過ぎましたはずでした。
私の子どもに生まれてくれてありが
とう

四、日々の生活の紹介

とにかく夫は、毎日生きるための努力を必死にしました。元気な者は何もしなくて生きますが、難病中の難病で、原因も分からなければ治療法も分からないという、死にゆく病に侵された夫は生きるために立ち向かっていきました。どんなに寒くても、お風呂の入り方としては、水とお湯を一分ずつの温冷浴や裸体操。そして「食べる楽しみは失つたけれど生きる喜びを得た。これで命を長らえることができるのなら」と、あの生

五、病の初期の頃のドロドロ夫婦

もし、先の所までで話が終わりますと、私は良くできた妻になります。生菜食療法も一緒にしました。夜の介護も大変でしたがやりました。勤務先である学校への送り迎えも……と。しかし、このことを証しなければなりません。

夫

が亡くなつてから読んだ本の中で、次の図形が示されました。思わず私は、「ああ、ああ、父さんが荒れたのはこの時だつたのか。お父さんごめん。」と夫の写真に向かつて言いました。その図形

というのは、キューブラ・ロスという精神科医が書いた「死にゆく過程のチャート」です。死にゆくほどの重い病気に罹つた時、人は次のような心の段階を辿るといふのです。1衝撃、2否認、3怒り、4取引、5抑鬱、6受容、そして希望と。それぞれの段階の長さはその人によつて違うでしようし、希望まで行かない間に死んでしまうこともあるでしょう。

夫は四五歳で死にました。若すぎた、残念だった、お氣の毒だったと言つて下さる方もありました。勿論生きていて欲しかつたです。でももし一〇〇歳まで生きました。

たら、キリスト教の真理に本当に気が付くことも、これほどの平安を頂くことも無かつたでしよう。二人とも、創り主を覚えるという、人生で最も大切なことを知つて、その方に全てを委ねて生きたのですから、決してお氣の毒でも残念でもなかつたと思います。

神様のご計画がすごいと思うのは、夫がこの病気のことと妻と年老いた母には言うまいと決心したことです。

これが夫婦のドロドロの始まりです。病気の初期の頃は歩き方がおかしい、転びやすい、手が上がりにくいといった程度でした。が、夫は病院に行かないで、本を読んでやバイ病気ではないかと感じたのです。何も知らない私としては、夫が「ちよつとおかしいんだけど」と言っていたのです。子供なら、母親としてちゃんと病院に連れて行きますが夫は大の大人です。心配なら自分で行くでしよう。結局二年近く病院には行かなかつたと思います。そして、とうとう行かないではおれなくなつて、夫婦で行きました。医師は病名は言いませんでした。ただ「この病気の権威の方が行なつている治療法をやつて

みましょう。」といつてその医師の名前を言いました。

夫には分かりました。私はと言えば、痛みもなく自分で当然歩いて病院に来ているわけですから、やつと病院に行つてくれた。これで治る、と安心しました。この病気の権威者の名前を聞いた夫は全てを察知しました。難病中の難病、死にゆく病、早ければ二三年で死ぬ、もつと早ければ半年で死ぬ、と。

人は、こんな重たい状況で、妻や母親に知らせないで一人で何事もないようにして生きられるものでしょうか。それがあの死にゆく過程のチャートです。真綿で首を絞めるようにじわじわと弱っていく。死の恐怖がどんなだつたか。叫んで喚いて泣いて、神様なぜですかと激しく揺さぶって問うほどの苦しみですから、静かに黙つてなどおれなかつたのです。それが私へのふて腐れ、いじけ、ひねくれとして現れたのです。

私は夫を愛していました。尊敬していました。夫と結婚したのも、この人とは結婚していれば、神様の道からそれることはない。社会を見る目も正しい。歴史を見る目もある。夫に従つてさえいれば

私を導いてくれる。そう思つて結婚したのです。その夫が全く尊敬に値しないどころか、醜態を演じているのです。信じられない姿でした。信じられない言葉が戻つてくるのです。ひとたびそうなつてしまふと、結婚して一〇年あまり、何もいいことなんか無かつた。姑は嫁いびりが生き甲斐のようで、と、楽しいことも沢山あつたのに、悔しい辛いことばかり思い出し数え上げてしまうのです。こんな夫ではなかつたはず。なぜこんな人になつたのか。姑はといえば、嫁のミスを息子に言いつける時のあのうれしそうな顔。そんな姑にミスを突かれないと聞いていた時に、いらいらしながら掃除などの家事をなす。私はもう疲れ果ててどうにもならない状態になりました。「何なのよ、私の人生」と、神様にも夫にも抗い、姑はふてくされ「クソッタレ神様、私的人来说、何もいいこと無いじゃない、何よ神様！」と、一升瓶を片手に、ストーブでするめをあぶつて夜じゆう悶々とする日が続きました。

指輪をはずし、夫に離婚を宣言しているのに、指輪の無いのに気付いた幼い息子に「お母さん指輪は？」と聞かれて、

しかたなく指輪をはめ直してふてくされているような日々でした。そんなある日、コリントの信徒への手紙一の一三章四節、七節「愛は忍耐強い、愛は情け深い、愛は自慢せず高ぶらない。礼を失せず自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。……」の御言葉に出会いました。夫婦が、嫁と姑の人間関係がドロドロになつていていた時、朝からいらだつて疲れ果ててている時に出会つた御言葉です。思わず「ああ、愛がなかつた！」と思つたのです。

聖霊の働きです。中学生の時から一体何百回このコリントの信徒への手紙を耳にしてきたことでしょう。頑張ってきたけど愛がなかつた。褒められこそそれ批判されないように必死でやつていたけど愛がなかつた。私はどんなに一生懸命姑や夫に仕える良い嫁であり妻であるかを認めてもらうための努力ではあつても愛ではなかつた。何よりも視点が私から相手を見ることだけに終始していた。

全体を客観的に見てみました。一度「私は正しい」「私はこんなにやつてきました」というどこから下りようと思いまし

この御言葉に出会い、一歩下がつて私を含め家庭全体を客観的に見てみました。一度「私は正しい」というところから降りようと思いました。私が相手に対しても慢してきたつもりだつたけれど我慢してもらつていたのではないか。神経すり減らしていたと思つていたけれど神経すり減らしてもらつていたのではないか。つまり私は、ものすごく精神的にも肉体的にももうこれ以上はできませんというくらい、我慢し神経すり減らし、頑張つて一人被害者みたいな顔をしていたけれど、私は人を傷つけつつでないと生きていけない人間だつたと腹から分かつたのです。へたへたと座り込むほどに分かつたのです。

夫が病気を隠した。そのために夫婦がドロドロになつた。嫁と姑がいがみあつた。この事を通して、人間の、私の、何者であるかを思い知つたのです。もし彼が早くに、「僕は大変な病気になつたようだ」と告白していれば、私達は抱き合つて泣いて、しかし「神様のみ旨を一緒に祈つてお聞きしましよう」と言つていたでしょう。そうしたら、到底私の心の奥底の罪には気付かないばかりか、よく仕

六、苦しみの意味

苦しみからは沢山のものを示されます。ヘンリー・ナーウエンは「闇への道・光への道」の中で次のように言つています。「人生の流れによって、私達は願つて頂くものになりたいということ。謙遜に、また委ねて生きるようにと変えられたこと等々です。

しかし何といつても、最も大事なことは、神の存在を腹から分かつたということです。長いクリスチヤン生活をしていて、キリスト教は分かつていたつもりでられたりすることがある。また友を失つたり、対人関係が壊れたり、新しい計画と取り組む事になる時もある。そういう時、私達は、実はより広くより遠くまで先を見通すように促されているのだ。普段心の表面を波立たせているあれやこれやの欲望の下の、希望という深い流れに触れるようにと招かれている。人生で下さる等と考えていました。日本人の考

えて見事に夫を見送つた妻が出来上がつてました。私は『新しい出発が必要だ』と言われているの平安はいたでいていません。何よりも許されているという勿体なさ、生かされている喜び、地位も名譽も財産も何もないのに草原を歩むようなさわやかさ、神の愛が燐々と降り注いでいるという感謝、私の頭の上は青空なのです。全ては、こんなものが許されて生かされているという勿体なさが原点です。

えて見事に夫を見送つた妻が出来上がつてました。私は『新しい出発が必要だ』と言われているの平安はいたでいていません。何よりも許されている喜び、地位も名譽も財産も何もないのに草原を歩むようなさわやかさ、神の愛が燐々と降り注いでいるという感謝、私の頭の上は青空なのです。全ては、こんなものが許されて生かされているという勿体なさが原点です。

私も沢山のことを示されました。まず、先程から証していますように、自分の罪に気が付くこと。神の愛と恵みと赦しが燐々と降り注いでいるということ。そのことからくる勿体なさに感謝にあふれて生きるように変えられるということ。苦しみを共に呻くものでありたいということ。人を裁くのではなくなりなしをさせ頂くものになりたいということ。謙遜に、また委ねて生きるようにと変えられたこと等々です。

しかし何といつても、最も大事なことは、神の存在を腹から分かつたということです。長いクリスチヤン生活をしていて、キリスト教は分かつていたつもりでしたが何も分かつていなかつた。神の存在、み手、ご計画などと考えてもいませんでした。自分の努力、自分の節制、自分の思い、設計で自分の人生を切り開いていくものだと当然考えていました。一生懸命そのことに進んでいく時、神様は必ずそれを見て助けて下さる。かなえて下さる等と考えていました。日本人の考

え方の中には、眞面目に生きてさえいれば、ということがあります。それどころかこんなに一生懸命なのだから、良いようにして下さらないはずはないと考えがちですが、それは本末転倒なのではないでしょうか。主権は神にあるのです。全てを越えてトータルにご支配なさるのが神です。そういう神であることが分かりました。そしてその神はテサロニケの手紙で「神は私達を怒りに定められたのではなく、私達の主イエス・キリストによる救いに与らせるように定められたのです」と過去形で語っています。因果や罰や業等というのではなく、何とかしてお前を救いたいのだ、平安に生きてもらいたいのだ、こんなにお前を大事に思つてているのだと、見つめて下さつていらる方なのです。

七、秩序
アウグスティヌスの小論文に「秩序」というのがあるそうです。その中にこう書いていると浜田美也子牧師がキ障共の講演会で教えて下さいました。「私は、いわば神の作品である刺繡の裏側を見ている」と。刺繡は色糸で模様

を刺していくます。裏は絡まつていたりコブができたりします。なぜこの色糸がここに出て終わつて結ばれて切られているか分らない。しかし表を見る時、神の作品ができるのです。どの刺し渡しもこれはいらないといふものはないのです。

私は、苦しみは平安までがセットだと思つています。でなければイエスの十字架の意味がありません。神様の見事なご計画の中で必ず平安を頂けるようになつていて信じています。夫が病気を隠した。泣くに時があり、悲しむに時があり、憎むに時があつて泣き、憎み悲しました。沢山の試練という点を結んでいくとその線は神へと向かっていくのです。そして平安へといざなわれるのです。

八、聖書を書きましょう

私は信徒ですから詳しいことは分かりませんが、ルカさんはイエス様が亡くなつて五〇年くらいして「良い知らせです」と「福音書」を書きました。今二〇〇〇年経っています。

勿論これまでに全世界で沢山の説教集や証が出されました。それほどにイエ

ス・キリストを救い主と証言する人々は多いわけです。私達はその書物や証言者に励まされ支えられて、苦しみを乗り越えさせて頂きました。私達も、自分にして下さった神の恵みと赦しと愛を書いてみませんか。「聖書を書きましょう」なんて、なんと傲慢な! とお思いですか。でも「私」を書くのではありますか。でも「私」を語るのに傲慢という言葉が当てはまるでしようか。むしろ「まだ、私を知らないというのか」と、神は首を長くして神を大胆に伝えることを待つていらつしやるはずです。と言つてもここまで言つたらやっぱり傲慢と思われるでしょうか。「難波幸矢の手紙」「幸矢の子どもたちへの第一の手紙」「母校東雲学園への手紙」などなどいかがでしょう。

九、教会で障害者を真ん中に

マルコによる福音書三章三節やルカによる福音書八章八節で、手の萎えた人にはイエスが「真ん中に立ちなさい」「立て真ん中に出なさい」と言つてゐる箇所があります。ここで律法学者やパリサイ派の人々が、安息日に入を癒すかどうかを見つめていることに対するイエスの怒

りがります。ここで律法学者やパリサイ派の人々が、安息日に入を癒すかどうかを見つめていることに対するイエスの怒

りとして書かれているもので、障害を負つた者を教会の真ん中、中心に置くかどうかの、私のテーマとは違いますが、敢えてこの箇所を引用しました。

障害を負つてしまつた人は、普通の人より生きる意味や自分の身におこつた障害の意味を分かりたいと、宗教を求める人は多いと思います。

そしていくつかの宗教を渡り歩きます。キリスト教は特に敷居が高い。差別もある。仲間とか地域で一緒に暮らしているご近所さんとしてではなく、お客様扱いをしている間に願わくばそつと去つていつてくれないか等と考えている。京都のある教会では、統合失調症の人が教会に行つたら、「あなたのような方が行く教会は西小倉めぐみ教会がいいでしょう」と言われたといふ。普通の身なりの人、もしくはいい格好の人だつたら喜んで「良きいらつしゃいました」と諸手をあげて歓迎するであろうのです。

教員の障害者に対する考え方は、一般社会で生きているわけですから、一般社会の考え方と根っこは同じです。むし

ろ、信仰によつて何かが固まつたというか、何かに固執するものを得て、一般社会より差別的でさえあるように思います。本当に今、教会全体で信仰の見直しが迫られているように思います。

日本教徒キリスト派くらいのものじゃないでしょか。ほんのイヤリングかブローチといった飾り物くらいではないでしょうか。生まれ育つた日本という社会での染み込んだ宗教観である因果応報や御利益信仰から出ていないのではないのか。人生うまくいつていることが信仰のおかげなどと勘違いしていいのか。極楽天国という言葉に変わつたくらいのとらえ方でしかないのではないか。キリスト教が日本に入つてきた時、仏教や儒教の土台でしか聞けなかつた限界が、今、問われているのではないでしょか。

今教会が本当に祈る群れになつてゐるでしょか。神について語り、共に子供のことについて相談し、病気や老いや仕事のことで悩みを打ち明け合い、励まし合い慰め合い祈りあつてゐるでしょか。何事もないふりをし、すべて上手くの額に印するほどに伝えたか。

「一生懸命まじめに生きれば、きっと神様は助けて下さる」といつた、お願ひすれば聞いて下さるというような、後ろ

に従わせているような神ではなく、「主権は神にある」「すべてをトータルにご支配なさる神」そういう神として伝えてきたか。ちょっとオシャレな飾りの神くらいではなかつたか。私達一人一人の信仰が問われているのではないでしょか。

障害者が隅に置かれ、あるいはおり辛く、それとなく排除される状況や、職業差別、否、うちの教会には弁護士何人、教授何人、医師何人、教師何人と地位や名譽を誇らしげに語る牧師の言葉に、障害者は身を細めるしかないのではないか。教会の高齢化が叫ばれて久しいが、若者がいらないわけじやない。若者が宗教を求めるわけではない。あれだけオウムに若者が集まつたではないですか。

今教会が本当に祈る群れになつてゐるでしょか。神について語り、共に子供のことについて相談し、病気や老いや仕事のことで悩みを打ち明け合い、励まし合い慰め合い祈りあつてゐるでしょか。何事もないふりをし、すべて上手くいつてゐるよう見せ、病気を知られないうやうに装つていないのでしょうか。うまくいつてゐることが信仰のおかげと勘

いしている人々や、地位や名誉のある人々に教会全体が牛耳られていると、弱い人々や苦しんでいる人々は何も言えなくなってしまう。そういう価値観の中で真っ先に弾き出されるのが、否、入れないのが障害者ではないか。障害イコール罪。障害イコール欠けた者、分からぬ者、出来ない者。障害者にしてあげることはあっても、一緒に信仰について語り合おうなどとは思っていない。彼らから試練を通して得たことをお聞きしようなどとは思っていない。自分が上だから。障害者が講師の時は聞く。しかし普通の障害者には聞くほどのものは何もないという態度が見え見えです。

先日、盲人の友から電話がありました。積極的な人で信仰については彼女なりの証を持つている人です。彼女は以前通っていた教会で、どうしても教会生活を一緒に送れない苦しみつつ転会した経緯があります。彼女は、現在通つている教会から帰ってきて、涙が出てしようがないというのです。教会で、信仰の友のつもりで対等に話し合っているのに、疎外され続けて言葉がすれ違う状態に疲れ果てたというのです。先の教会を去つ

た時には自分を責めた。自分が間違つていたのではないか。高慢になつていなかつたかと。でももし今行つてゐる教会を去ることがあつても、今度は自分を責めない。「幸矢さん、障害者の行く教会がいいのよ！」と言いました。それでもなんとか留まつて、教会で証をさせていただいたそうです。障害者の立場から障害を理解して頂くための証でした。障害者に声をかける時は、「A子さん、難波です」と相手の名前と自分の名前を言つてくださいなど、自分に話しかけてくれら。障害者が講師の時は聞く。しかし普通の障害者には聞くほどのものは何もないという態度が見え見えです。

本当に今、キリスト教の原点、十字架の意味、イエスに倣うことが教会で問い合わせなければならないと思います。教会の中のおそらく隅の方にか、神を神としてさらさらと生きている方がいるはずです。その人が教会から居なくなる前に、その方々と一緒に、遣わされた者として、この神の愛と恵みと赦しのすたのかどうか分からぬから。手引きは半歩前を等、わかりやすく説明しながら証をしました。ところが「私がしてあげるんだから大丈夫」といつた態度や、次の週のみんなの態度の冷え冷えしていたこと！ 「厳しいです、幸矢さん」と言つてきました。

ありがとうございました、お世話をになります、すみませんと、よい子障害者（私が創つた言葉です）のうちはいいのですが、障害者がいつたん声を出し始めると、生意気な障害者、わがままな障害者にされてしまふのです。障害者が主体的に生き、主体的に発言することは、いわゆる健常者に

とつては我慢ならないようです。また後で聞いた話ですが、彼女がその教会に行きだして二年経つてやつと、彼女の週報ボックスができたということです。

本当に今、キリスト教の原点、十字架の意味、イエスに倣うことが教会で問い合わせなければならないと思います。教会の中のおそらく隅の方にか、神を神としてさらさらと生きている方がいるはずです。その人が教会から居なくなる前に、その方々と一緒に、遣わされた者として、この神の愛と恵みと赦しのすたのかどうか分からぬから。手引きは半歩前を等、わかりやすく説明しながら証をしました。ところが「私がしてあげるんだから大丈夫」といつた態度や、次の週のみんなの態度の冷え冷えしていたこと！ 「厳しいです、幸矢さん」と言つてきた手の萎えた人に、イエスが「ここに来なさい」と招いたのは会堂のまん中だつたのですから。

先日の、キ障共の講演会で講師の鈴木恭子牧師は「ある人が問題を起こし、他の人々を置いて関わらなければならなくなつた時がありました。九九匹の羊は一匹の羊がいなくなると落ち着かないの

です。一人のために他の教会員の方々を放つておくことになつても不満は出ませんでした。むしろそれを見て、自分が窮地に陥つた時は本気で取り組んでくれるという安心感があると信徒が言いました」と言われました。

最も、今困難を覚えている人に牧師が心を注ぎ込むことは、他の信徒が落胆したり妬むのではありません。むしろ一人の人に何か問題があつた時、牧師はあれほどまでに心を注ぎ込んで下さるのだと確認し、信徒も一緒になつて事に当たるものなのだと確信しました。むしろ、あちらの事が忙しいからあなたの問題までは手が伸ばせませんという姿勢のほうが重大問題です。

今困難を覚えている人、苦しみにある人を、おおつて囲つて教会全体で支え合うようにと今一度勧められているのではないでしょうか。

(キ障協副会長)



聖書に聞く

「弱く見える部分が必要」

— 教会と障害者 —



故・元隠退牧師

鈴木 實

コリントの信徒への手紙

一二章一八～二六節

一 教会は障害者を求める

マルコ福音書九14～29を見ますと、山上で榮光につつまれていたイエス様が、

三人の弟子たちを連れて、下りて来られたのです。そこには騒ぎがありました。

群衆の中の一人が悪霊にとりつかれた息子を連れて來たのです。悪霊を追い出しにもらいたいと求めました。弟子たちは先生のまねをして祈つたのですが、手に負えませんでした。これを見たイエス様は、嘆かれながらも、子供から悪霊を追放されました。十二人の弟子たちの九人が残つていたのですが、イエス様が不在

では、この世にあつても何の力にもなりませんでした。

今日も変わりません。教会の形があつても、その中にイエス様がいて下さらなければ、キリストの教会ではないのです。

イエス様が山から戻つて来られなかつたら、その父と息子は失望して去つて行つたでしよう。

イエス様が行く人々には、障害者が集つてきました。イエス様の存在を証するものの一つは、障害者の存在でした。障害者が居ないと言うことは、イエス様がおられないと言うことでした。今日の教会においても、それは変わりません。

宴会を催すときには（ルカ一四13）、障害者を招きなさいと主は言われます。さらに大宴会に招いていた人たちが来なければ（ルカ一四21～23）、街に行つて貧しい人や障害者を連れて来なさいと言われます。誰でも招かれますが、ただ礼服（信仰）を着て入ることだけは求められています。御注意下さい。

イエス様のおられる所、即ちキリスト教会には、障害者の存在は欠かすことが

出来ません。

二 障害者は「はづれ」か「個性」か

障害者と言う言葉は、健常者に対して用いられます。健常者とは普通の人、平凡で取り換える可能な人と言うことです。どこにでも居る人たち、世の中の多くの人たちのことです。

それに対して障害者とは、ちがつた人たちのことです。健康的でない、はみ出しがあり、少数者なのです。普通の人たちを正常と考えるならば、異常と言うことになりますが、それは一面的な見方です。数の論理です。

世の中には数の問題であり、数は力なのです。健常者がまともで、障害者は、はみ出しがあります。しかし、健常者が正常で障害者が異常だと言うのは、数の論理なのです。本当は逆なことも多いのです。眞理は少数にあり、とも言われます。もしピカソが普通の絵を描いていたらどうでしょう。同じ絵が一点だけでなく、百点も千点もあつたとしたらどうでしょう。印刷されれば、世界の名画も私たちの手に入るでしょう。言つてみればピカソだから不可解で良いので

す。モジリアニだから、女性の顔が細長くても曲がついていても良いのです。

障害者がはづれなら、天才奇才もはずれです。AINシユタインも障害者と言えます。杖をつかなければ歩けない者が障害者なら、100mを一〇秒以内で走る者も障害者です。世の中では障害者は差別されます。異常だから、少数だから、能力が弱いから、差別されるのです。もともとは「ちがい」であり「区別」でしかないのです。

世の中も変わつて来ました。障害者への偏見を見なおしていけないか。そういう事が考えられるようになつてきました。どうしたら良いのか、世の中で心の温かい人たちは考えてくれました。障害にはいろいろあり、区別されるけれど、

差別するのは良くない。考えてくれた末に、障害は「個性」だと受けとめる。差別するのではなく、一緒に生きていくこう。「共生」だと言うことになつて来ました。大変ありがたい事であり、正しいことだと思います。しかし、無理があります。

障害者は異常であり、能力が無い。一緒に暮らしていくのは嫌だと言う人たちも居るのです。人間が罪の力に支配されて

いる所では、必ず出て来る問題です。

罪とは、造り主の神様に逆らつて、背を向けて生きようとする力です。世界の

本当の支配者である神様に背を向けたら、あとは自己中心、利己主義だけです。弱者、障害者にわざわざされたくないのです。世の中の善意も正義も罪の力を越えることは出来ません。汚染土壤の受け入れ問題でも、一般的には賛成だが、身近な土地では反対します。これがこの世の現実です。罪を犯してエデンの園を追われて以来の形です。私たちの住むこの世は、エデンの東であり、罪の力の支配する所なのです。

三 障害者はイエス・キリストを求めます

障害は罪と深い関係があります。障害が罪の結果だと言うのではありません。しかし、障害者が差別されたり、不幸であるのは、罪のせいなのです。罪の壁が除かれなければ、障害者は救われないのです。

人間はいろいろですから、ちがいがあつてもいいではないですか。ちがう個性に造られたのは神様です。神様は万物

を造られた後に、「見よ、それは極めて良かつた」(創世記一31)と言われました。ちがいやみ出しが差別されて、不幸だと言うことになつたのは、「罪の力の支配」のためなのです。

罪の壁を取り除くために、神の御子のイエス様が、すべての罪人の身代わりに、十字架につけられて下さいました。

神様御自身に対する罪を神様御自身が受け止められ、裁かれて下さり、処理して下さいました。これから後、罪人は罪赦された神の子らとして、神の国(支配)の中に歩むように招かれています。

罪の支配する闇の世の中に、イエス様は、神の御国の命の光をもたらされました。まだ闇は続きますが、その中に、すでに夜明けの光のように、光の御國が始まっているのです(創世記一31、ヨハネ一49)。

障害者は特に、切に、イエス・キリストを求めるのです。イエス様は、たとえ片目、片手、片足がなくとも、「体の一部がなくなつても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。」(マタイ五29b)と言われます。障害者であることが不幸なのではなく、天国に入れない事が

不幸なのだと言われるのです。

偏る者、はずれる者と人は言います。

しかし油断してはいけません。普通で平凡で中央に居るから安心と思っている貴方は、「まん中に偏っている」のです。もし悔い改めなければ、神様の愛と憐れみに与れないのです。この点、皆同じです。

巨万の富を持つのが幸せか。100mを10秒以内で走るのが幸せか。知恵にすぐれ、世の中を肩で風を切つて生きるのが幸せか。それも又、偏りであり、不幸のもとではないでしょうか。

誰であれ、キリストを持つ者、キリストにより神の国を持つ者こそ幸せなのです。内なる宝物が土の器を越えて輝き出るのです(二コリ四7)。器は宝によつて輝き、尊いものとされる。これが眞の幸せなのです。

四 障害者は教会を求める。そこにイエス・キリストが居られるからです

障害者はキリストを求めて、教会に来ます。「キリストは教会の頭であり、自らその体の救い主である」(エフェソ五23)と言わわれています。

キリストのいます所に、神の家族があります。

それが教会です。そこに求めてやまなかつた家庭があり、故郷があるのです。そこに、求めていた私の居場所があつたのです。英語で言うと、'home'です。

しかし、なおこの罪の世の中における事ですから、初めに言いましたマルコ九14-29のよう、キリストの不在と言ふ事が起きたかもしません。それほどひどくなくとも、いろいろな教会があるのかもしれません。しかし、神様は世界中のどんな両親にも子供を託して下さいます。同様に、どんな教会であつても私たちを託して下さつたのです。もしどうしても合わないなら、家にひきこもるよりもは、他の教会に移つたらよいのです。でも一番良いのは、まず祈ることです。教会のために、牧師のために祈ることです。神様は御自分の教会のために、そして貴方のために、きっと最善の御答を下さるでしょう。

いずれにせよ、障害者である貴方が礼拝に出ているということは、貴方の主キリストがそこにおられると言う証しをしているのです。

教会に行つて障害者に接する人たちは、あとで知るのですが、自分たちが触っていたのは、イエス様御自身であつたのです（マタイ二五35—40）。

教会に行ってキリストを見出す人は、人生最高の宝物を掴んだのです。もう己を土の器と嘆くことはありません。貴方が主と共に歩むなら、貴方はキリストの故に尊い者とされているからです（二コリ四7）。

キリストにおいて真の神様を見出せた者は幸いです。キリストと共に生涯を歩む「同行二人」です。終の日に天国に迎えられること。すでに今から御国に民としていただいていると（フィリピ三20）、信じているからです。

すべてのものは過ぎ去ります。年をとるところは実感です。かわらないのは、眞の神様であるイエス・キリストとその御国です。為すべきことは、それぞれに与えられます。御心を行つて、恵みの花を咲かせて参りましょう。置かれた所で、花開き実を結びましょう。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」（マタイ六33）。

自分の肉体（肉に属するもの）で輝くのではなく、肉の器にいただいた宝物、イエス様の輝きの中歩ませていただきましょう。過ぎ去る栄光ではなくて、永遠に変わらない神様の愛と眞実の輝きの中を、天に向かって歩いて行きましょう。そこに障害を越えた（忘れた）神の子らの生きる喜びがあります。世の宝ではなく、天の宝によつて生かされて行きましょう。

団体の様子をお聞きする機会が与えられました。その席上で、修養会は開催出来なくとも、是非、総会だけはZoomで良いから開いて欲しいとの要望が出されました。それを受けて二回役員会を開いて準備をし、七月六日に開催することが出来ました。特に延期していだ役員改選を中心として今後のことも含めて話あつた次第です。その報告を下記のようにさせて頂きます。

**全国キリスト教障害者団体協議会
(キ障協)は今**

会長 廣田 守男

全国キリスト教障害者団体協議会
二〇二一年度 Zoomによる総会
日時 二〇二一年七月六日（火）
午前一〇時～一二時

メディア Zoom

（Zoomホストアカウント廣田守男会長）

I. 開会 廣田守男会長挨拶
聖書 詩編四六編
讀美歌 慈しみ深き
祈り

キ障協の役員会も最初は電話連絡をして話しあつましたが、昨年二月よりZoomによる役員会を開くことにしました。それだけでなく所属団体の代表者の方々ともZoomを用いて懇談の時を持ち始めました。それにより各

II. 加盟団体状況報告 司会 廣田会長
● みちのくコスマスの会
活動は全く中止状態。特に会長の小

田嶋さんの体調がすぐれず。コロナ禍で面会もままならず、役員会を開いたいが遠方でそれもかなわない状態。九月に総会・修養会を開きたいが、ワクチンを受けて安定した時にこの会の今後についても話し合いたいと思っている。小田嶋さんは、来年には会長を降りたいと思っているが、会員それが高齢化にあって悩ましい。現在は主に北上教会を中心にメンバー四人五人だが、会の運営、対応について考えていくところです。

●埼玉アーモンドの会（障害を負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会）

二五年前、特別委員会として発足。正式名称は上記の通り。一年に一回共に会つて講演、分団を持つが、バズセッショングでテーマが浮き彫りになつていくことを経験してきた。二〇二一年度は「つながつて生きる東日本大震災」「障害を負う人々と共に生かされる教会」だが、因みに二〇二一年度は「統合失調症 診療室より物語りから学ぶ」だった。生き辛さを抱える問題に取り組んできたが、コロナ禍後はZoomで開こうとしたが、

田嶋さんの体調がすぐれず。コロナ禍で面会もままならず、役員会を開いたいが遠方でそれもかなわない状態。九月に総会・修養会を開きたいが、ワクチンを受けて安定した時にこの会の今後についても話し合いたいと思っている。小田嶋さんは、来年には会長を降りたいと思っているが、会員それが高齢化にあって悩ましい。現在は主に北上教会を中心にメンバー四人五人だが、会の運営、対応について考えていくところです。

● 兵庫共励会

NPO法人になつて七年目に入る。昨年度はコロナのため活動が出来なかつた。年二回の通信物は六〇〇部発行。研修、小旅行は出来なかつたが、ランチョンは六月と八月、二七名参加した。会員訪問は出来なかつたが、理事会は書面で一回、対面で四回行つた。一四日対面で理事会を開く。特記事項としては、多額の寄付を頂いたので、きちんとして会計へ入れることや使い方にについてこれから準備する。共励会も五〇年を迎えるので、五〇年史を発行する。

● 信州なずなのは会

会長は北原さん。事務局の谷口が報告します。世話人は松本教会と蓼科教会のほかは二〜三人の状況。会議は月二回。近況報告を中心としたもの。年一回障がい者の集いを一二月の障がい者週間に合わせて開いている。四〇周年記念会を予定している。機関紙は合本を考えている。

かつた。
二回ほど役員会で情報を共有した。残念な結果です。ワクチンの接種もほぼ六五歳以上は全て終わつたので、秋以後動き出せるのではないかと考えている。

● 広障伝

会長の剛家さんが不参加だが三月にZoomで話したのと同じ。活動は出来なかつた。夏季修養会、クリスマス会、交わり会、機関紙すべてできな

● 四障伝（四国障害者キリスト伝道会）

事務局 野口幸生です。ずっと活動が出来ていない。さすがにこれではと、鈴木元会長が四障伝について文章を残していらつしやつたので、それを載せて一一号を発行した。丸木現会長も次年度は交代したいとのこと。祈つている所です。

● 東中国キ障共（東中国キリスト者障害を共に学び共に担う会）

ちょうどシャローム一五二号を明

後日発行するところですが、鳥取側の「春の日集会」他「講演会」など何もできない状況です。シャロームも、会計報告を出すには役員会での承認がいるとのことで、急遽（教会では役員会が開けないので）喫茶店で必要最小限の議事をこなして了承しました。いつもは、私たちの会は役員会を始める前に一〇数ページ余り、読書会で輪読し感想を述べあってから議事に入るのです。現在は向谷地生良さんの「精神障害と教会」を読んでいます。すごくいいです。皆さんにお勧めします。今日、一番お伝えしたいことは、シャローム一五二号に紹介したことですが、実は教団社会委員会で一緒に生き詰まりの先にあるもの」の共著だった長澤道子さんから送られてきた本「【それでも一緒に歩いていく】牧の原やまばと学園五〇年のあゆみ」という本です。障がい者の施設が地域から理解されなくて「悪い事をしたらやまばとへ連れて行くよと言われたり、道で出会つたら逃げられたりする頃からの状況が語られています。キリストに真に出会つた人の生きざまが

に紹介したら、編集者からクレームがついてそこはカットしましたが、本当にすごいです。ぜひ読んで下さい。

III. 総会 司会進行 廣田会長

一、議長選任 廣田守男会長

二、点呼

みちのく 酒匂節雄

さいたま 高橋悦子、桜井義也

信州なづな 谷口透

共励会 高野国昭、谷合公江

広障伝 唐見敏徳

四障伝 野口幸生

東中国キ障共 難波幸矢

総会成立宣言

三、総会議事録書記選任 難波幸矢

四、二〇二〇年度活動報告承認に関する件

役員改選期についても、総会が開けなかつたため任期を延長継続して事業に当たつたこと、役員会はZoom会議を開催した旨報告。議場はこれを認め。

五、二〇二〇年度決算報告並びに監査報告承認に関する件

聖書より分かりやすいとシャローム

に紹介したら、編集者からクレームがついてそこはカットしましたが、本当にすごいです。ぜひ読んで下さい。

報告者滝川英子会計
櫻井 「喜びのいのち」の代金を「特別会計より入金」で、一般に算入したが、明らかな書き方にしてほしかった。

滝川 下の説明のところにあります。

廣田 昨年度の総会が開けなかつたので、各団体に特別会計に入れる旨を伝え、何も異論がなかつたのでこのような会計報告になつた。

議場はこれらを承認。

なお、桜井副会長、永年（二〇年余り）当会の重責を担い、渋沢顧問と連携プレイでこのキ障協を支えてくださいましたが、健康上の理由で去られるのでやむをえませんが残念です。

六、役員選挙に関する件

任期二年 二〇二一年～二〇二二年度

- ①会長 廣田守男 副会長 白井進（廣田会長が推薦）、難波幸矢
 - ②会計 滝川英子
 - ③監査 石川幸男
 - ④顧問 渋沢久
- 旧役員、新役員のための祈祷 野口幸生
牧師

七、二〇二一年度事業計画に関する件

- ①二〇二一年度修養会総会開催について
今後さらに担当の四障伝と協議して、開催実施としたい。

二〇二二年七月 松山市
②機関紙「キ障協」No.43の発行
渋沢 四障伝の鈴木實牧師がご存命の頃に書かれた文章と、難波幸矢姉が四障伝と広障伝が担当の時の全国総会の時、「障害者が教会で真ん中に」をメインに進めたいと考えている。春に発行の予定。

機関紙の合本は考えているかの質問だが、現在は考えていない。

③Zoomによる役員会実施。必要に応じて年数回。可能な場合は面接会議にしたい。

役員会議事録はその都度各団体に送り、Zoomに臨時参加もして頂く。

④「キ障協年表」を発行する。費用は前年度「喜びのいのち」特別会計を閉鎖し、本会計に入金した二九三、四五五円を充当します。

八、二〇二一年度会計予算に関する件。
滝川会計が予算案を読み上げ議場

はこれを承認した。尚、予算決算表の下段、特別会計の欄に説明があります。

二一年度分担金を三団体が前納済みである事を感謝します。

- 九、議事録承認に関する件
役員会に委任する。議事録確定後各団体に送付する。

可能な場合には面接会議を年間一回は実施したいが、ウイルス感染状況によつて判断する。

役員会議事録などは実施の度に各団体にメールにて送付する。必要によつては加盟団体の意見を徴するためZoomに随時参加していただく。

①キ障協年表を発行する経費は「特別会計」積立金から充てる。

②二〇二一年度会計予算に関する件

提案者 滝川会計（予算案 別紙計算書参照）

③議事録承認に関する件

役員会に委任する。議事録確定後、各団体にメールにて送付する。

IV. 閉会祈祷 櫻井義也前副会長

二〇二二年度キ障協修養会・総会案内

日時 二〇二二年七月四日(月)～五日(火)
場所 道後友輪荘（愛媛県松山市道後町
二一一二一一）

担当 四国障害者キリスト伝道会
講師 成田信義
(土佐教会牧師・聖泉幼稚園園長・
日本基督教団高知分区長)

主題講演

「この『障がい』をも賜物として」

自閉症スペクトラムという発達障害のあるご長男と共に生きることを通して、親として学んだり感じていることを聖書に照らしてお分かちください。特にマタイによる福音書二五章一四一二七節から、主イエスにとつて、「いのち」とは?「障がい」とは? 共に聖書から聴きたいと思います。

